

1 産地基幹施設等支援タイプ
I 産地競争力の強化を目的とする取組用

（都道府県名：栃木県 令和5年度報告）

市町村名	事業実施主体名 メ ニュー ① (対象作物・畜種等名)①	類別	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績① メ ニュー ② (対象作物・畜種等名)②	類別	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時(令和元年)	1年後(令和2年)	2年後(令和3年)	3年後(令和4年)	目標値(令和4年)	達成率				計画時(令和元年)	1年後(令和2年)	2年後(令和3年)	3年後(令和4年)	目標値(令和4年)	達成率			交付金	都道府県費	市町村費	その他				
				(R元)	(R2)	(R3)	(R4)	(R4)	188.0%				(R元)	(R2)	(R3)	(R4)	(R4)	301.6%										
小山市	株式会社シンボ・アグリアートモダニズム 野菜(トマト)	I1	【トマト】全出荷量に占めるブランド野菜の割合を増加させる	25%	未発現	59%	72%	50%	(72%-25%)/(50%-25%)=188.0%	全出荷量278tのうちブランド野菜での販売量201t	I2	【トマト】10a当たりの収量を16%以上増加させる	18.546t/10a	-	23.977t/10a	27.5t/10a	21.514t/10a	301.6%	施設：低コスト耐候性ハウス構造：間口6m×奥行54m/42m×7連/3連(四方張出0.5m)管理室(333㎡うち255㎡は事業対象外)	111,845,800	48,383,000	19,353,000	44,109,800	令和3年9月10日	全出荷量に占める上位規格品等の割合、10a当たりの収量について順調に数値を伸ばしており、目標を上回る成果が出ている。	目標年度の達成につながった。引き続き、事業の効果が続くように、継続指導を行う。		

都道府県平均達成率	100%	総合所見	評価対象となる事業について成果目標を達成することができた。事業効果が継続的に得られるよう、引き続き地域一体となって取組を行っていく。
-----------	------	------	--

- (注) 1 別紙様式1号の1の(2)のIに準じて作成すること。
 2 要綱第3の2の(2)のAの(ア)のただし書きの場合にあつては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。

II 食品流通の合理化を目的とする取組用

												成果目標Ⅰ										成果目標Ⅱ																				(都道府県名：栃木県 令和5年度報告)									
市町村名	市場名	事業実施主体名	メニュー	類別	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	類別	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況										事業内容(施設区分、構造、規模等)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価		都道府県の評価		備考																
						計画時(平成29年)	1年後(令和元年)	2年後(令和2年)	3年後(令和3年)	目標値(令和3年)				達成率	計画時(平成29年)	1年後(令和元年)	2年後(令和2年)	3年後(令和3年)	4年後(令和4年)	5年後(令和5年)	目標値(令和5年)	達成率	交付金			都道府県費	市町村費	その他	令和2年 3月27日																						
																																		(H29)		(R元)	(R2)	(R3)	(R4)	(R5)	(R5)	86.95%	(H30) 売場施設(171.14㎡)、情報処理施設	(R元) 売場施設(168.24㎡)、売場施設機械(一式)、情報処理施設(一式)							
芳賀町	栃木県肉地方卸売市場	株式会社栃木県畜産公社	効率的な市場流通	M4	(物流の迅速化)単位重量当たり作業時間を1.2%以上短縮	(H29) せりに要する作業時間 900秒/100頭	(R元) 整備中による未稼働のため実績なし	(R2) せりに要する作業時間 859秒/100頭	(R3) せりに要する作業時間 825秒/100頭	(R3) せりに要する作業時間 800秒/100頭	75%	4.5%の作業時間短縮	M1	(集荷力の向上)目標年度における取扱数量が推計値を0.7%以上超過	(H29) 取扱頭数 豚：111頭/日 牛：37頭/日 肥育豚換算 259頭/日 H29年度時点での目標年度の推計	(R元) 整備中による未稼働のため実績なし (R元) 豚：171頭/日 牛：26頭/日 肥育豚換算 259頭/日 R2年度時点での目標年度の推計	(R2) 取扱頭数 豚：150頭/日 牛：25頭/日 肥育豚換算 250頭/日 R3年度時点での目標年度の推計	(R3) 取扱頭数 豚：147頭/日 牛：23頭/日 肥育豚換算 239頭/日 R3年度時点での目標年度の推計	(R4) 取扱頭数 豚：114頭/日 牛：42頭/日 肥育豚換算 282頭/日 R4年度時点での目標年度の推計	(R5) 取扱頭数 豚：114頭/日 牛：42頭/日 肥育豚換算 282頭/日 R5年度時点での目標年度の推計	(R5) 取扱頭数 豚：114頭/日 牛：42頭/日 肥育豚換算 282頭/日 R5年度時点での目標年度の推計	▲ 86.95%	推計値から7.7%減少	(H30) 売場施設(171.14㎡)、情報処理施設	(R元) 売場施設(168.24㎡)、売場施設機械(一式)、情報処理施設(一式)	327,213,000	26,739,000	109,766,000	18,640,000	172,068,000	令和2年 3月27日	栃木県内で唯一の食肉地方卸売市場である「とちぎ食肉センター」は令和2年4月1日から稼働し3年が経過した。令和3年度に栃木県内で発生した豚熱や令和4年度の大腸菌汚染でのPRRS等の疾病が発生した中で、肉畜集荷拡大に向けた取り組み成果も徐々に現れ、牛・豚共に取り扱い頭数が増頭した。豚取扱い頭数の増加に伴い、豚上場頭数も増頭(昨対比+4,024頭)となった。一方で、牛上場頭数は減少(昨対比△2頭)となった。せりの事業環境については、牛・豚共に市場取引ではなく相対取引とする出荷者の強い意向もあり、今後も大幅な増頭は見込めない状況にあるが、せり上場に誘導する交渉を継続して進めていく。せりに要する時間においては、目標年度である令和3年度時点では未達成(達成率75%)となったものの、その後作業効率の向上で作業時間が短縮されたことで、令和4年度には目標値を達成することができた。	せりの取扱数量については、昨年度に引き続き国内の新型コロナウイルス感染症拡大等の影響等により食肉流通の取引交渉が予定と異なり進められなかったことに加え、令和3年度及び令和4年に栃木県内で豚熱が発生し処分されたことや、県内企業養豚場の疾病の影響を大きく受けた事業環境であった。この影響は令和5年度前半まで続いたが、目標年度(R5)での達成に向けて、年度後半での大規模畜産農家へのとちぎ食肉センター利用を促進し、引き続き事業効果の発現に努める。せりに要する時間においては、目標年度である令和3年度時点では未達成(達成率75%)となったものの、その後作業効率の向上で作業時間が短縮されたことで、令和4年度には目標値を達成することができた。																		

都道府県平均達成率(令和5年度目標分)		総合所見	
都道府県平均達成率(令和3年度目標分)	75%	総合所見	せり取り扱い頭数が少なかったことで買参人が競合し落ちまでの時間を要し、令和3年度目標を達成することができなかった。作業効率の向上を図るなど目標達成に向けた指導を行っていく。

(注) 1 別紙様式1号の1の(2)のIIに準じて作成すること。
 2 別添として、各事業実施主体等が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
 3 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
 4 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
 5 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。